## JAFXボーツWEB

## **2018年JMRC西日本ジムカーナフェスティバルin中国**[JAF公認No.2018-4032]

開催日:11月10~11日 開催場所:TSタカタサーキット 格式:準国内 主催:HINODE.C[クラブ登録No.加盟34025]、CCN[クラブ登録No.加盟35005]

フォト&レポート/ JAFスポーツ編集部



日本地区で開催されるJMRCシリー ズの上位ランカーが一堂に集う年イ チのイベント、JMRC西日本ジムカ

ーナフェスティバルが広島県のTSタカタサーキットで開催された。

ミニサーキットであるタカタは隣接するグラベルサーキットのテクニックステージタカタ同様。速度の乗るコーナーを多く持つダイナミックなコース。ただし、ジムカーナとなれば、その特性を生かしつつ、規制パイロンなどのシビアな設定が盛り込まれる。

今回のレイアウトの特長は決して広いとは言 えないストレート上にフリーターンが設けられ たこと。しかし多くのドライバーが今回最も注 目したのはゴール前の広場に設定されたパイロンセクションだ。ここは中国地区のJMRCシリーズでもまず欠かさず設定される名物セクションだが、地元ドライバーでも「いつもより複雑」と語る、タイトなパイロンが連続する設定となった。中には「ここだけで1秒、差がつく」というドライバーもいるほどで、当日の大きな勝負所となったことは間違いないだろう。

ラジアルタイヤを履くRWD車対象のBR3クラスは、ヒート1、近畿のSW20マイスターとして知られる岩崎玲生選手が1分41秒178で断トツのトップタイムをマークする。しかしヒート2では自らの中間タイムを1.5秒削り取ったヒート1、2位の古田尚史S2000が0.022秒、

1. BR1クラスはカプチーノを駆った地元の坂井一弥選手が快勝した。2.「今年はボロボロでチャンピオンも落とした感じなんで 最後は締めたかった」。BR2は尾崎則夫選手が2度めの西フェス制覇。3. 九州の白川希選手がLクラス2位に入賞。4. SA4辰 日浩之選手は2番手に甘んじた。5. BR2の2位に甘んじた上程恒夫選手。6. BR1で2位入賞の緒方崇之選手。

岩崎選手の暫定ベストを塗り替えてトップに。 再逆転を狙った岩崎選手だったがスタート直後 にまさかのコースオフ。結果、古田選手がその まま逃げ切って西フェス初優勝を獲得した。

JMRC中部東海シリーズチャンピオンの肩書を引っ提げて参加した古田選手は、学生時代、広島に住んでいたこともあり、今回は5年ぶりにTSタカタを走行した。

「昨日一日走って思い出して(笑)、何とか今日は納得の走りができた感じです。1本めの後に、ブレーキングで詰められそうな所をロガーで解析して、ターンも1本め納得いかなかったところで修正できるように考えて走りました。実はJAFの金メダルもらうのは初めてなんですよ(笑)」と笑顔で振り返った。

続くBR4クラスではJMRC近畿ミドルシリ













ーズ等を追った今津誠選手がヒート1のタイム で逃げ切った。

「この大会のためにだいぶ練習しました。最後のパイロンは奥伊吹での練習の成果を生かせたし、名阪の最終戦でフリーターンがあったので、良かったです。古谷さんや辰巳さんといった速い方々にもライン取りなど教えてもらいました」

と近畿の先輩達に感謝しきりだった。

最後に難関パイロンが控えているとはいえ、 高速のコースジムカーナとあってやはりオーバーオールウィンは最速マシンが揃うSA4クラスだった。勝ったのは沖縄の大城剛選手だ。

「9月の全日本に出た後、九州にクルマ置いて もらってたんです。沖縄はコースジムカーナが ないので、金曜に初めて走った時は雨だったし、ちょっと怖かったですけど、皆さんの走りを見て、何とか"こういう風に走ればいいんだな"と合わせ込めた感じですね。最後のターンもやりづらかっけど、沖縄はああいうセクションは多いので、今日はコースが課題でした」と勝利の味を噛み締めていた。